# 事業報告

**１　概　要**　　平成２７年度から続く事業「AWAJI 未来探検隊」は今年度からリニューアル。SDGｓ・ESD の観点を盛り込み、今後５年間で淡路島の里山、里、里海をフィールドにストーリー性をもって展開していく。今回は、里山に焦点を当て、「野生生物との共存」をテーマに実施した。第一回では、現在地球全体あるいは淡路島でどのような環境問題が起こっており、それはどのような原因で起こっているのかを学んだ。その影響の一つである獣害について、実際に獣害被害の現場や対策地域を見学し、農家や猟師にインタビューを行った。野生生物を捕獲し殺処分する一方で、命を無駄にしない方法としてジビエ料理を体験した。第二回では、山・森・川・海・生物・そして人の暮らしのつながりを学ぶため、淡路島最高峰の諭鶴羽山を登り、諭鶴羽神社を訪れた。様々な立場の方からお話を聞き、体験を通して学んだことや感じたことを１分間のメッセージ動画にまとめた。最後に、今回のテーマにおいて今後頑張っていく「チャレンジ宣言」を各自発表した。

**２　日　時**　（第一回）令和3年１２月２５日（土）１０：００～１２月２６日（日）１６：００
（第二回）令和4年　2月　5日（土）　９：３０～　2月　6日（日）１６：００

**３　場　所**　（第一回）国立淡路青少年交流の家、阿万吹上地区周辺
（第二回）国立淡路青少年交流の家、諭鶴羽山、諭鶴羽神社周辺

**４　参加者**　（第一回）参加者１５名（小学生５名、中学生１０名）
（第二回）参加者１３名（小学生５名、中学生８名）

**５　講　師**　（第一回）NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路　内藤　正明　氏
阿万吹上地区自治会　阿部　錦也　氏
阿万吹上地区自治会　阿部　章　氏
吉備国際大学　金沢　功　氏
吉備国際大学狩猟部
京都大学　柴田　昌三　氏
（第二回）諭鶴羽神社　奥本　憲治　氏
株式会社フィールドコム
NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路　内藤　正明　氏

## ６　プログラムの日程

【第一回】

| | 9:30 10:00 | | 12:00 13:30 | | 17:00 17:30 18:00 | | | 21:00 21:30 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12月25日（土） | 受付 | ＜開会＞<br>＜淡路島の魅力「豊かな自然」を学ぼう＞<br>講師内藤氏から環境問題等についてのお話 | 昼食・移動 | ＜野生生物を知ろう！＞<br>獣害対策地域の阿万吹上地区に見学、自治会の方へインタビュー | 移動・夕食 | 入浴 | ＜環境への知識を深めよう！＞<br>環境教育プログラムの実施 | 就寝準備 | 就寝 |

| | 6:30 | 7:20 7:50 | 9:00 | | 14:00 | | 15:30 16:00 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12月26日（日） | 起床 | 朝食 | 掃除・移動 | ＜ジビエ料理を食べよう！＞<br>吉備国際大学狩猟部の指導のもと、ジビエ肉の解体を見学、五感を使ってジビエ肉を観察、その後、解体したジビエを使って野外炊事 | ＜二日間を振り返ろう！＞<br>里山の保全と野生生物の共存の関係を講師柴田氏とともに考える | 閉会 | 解散 |

【第二回】

| | 9:00 9:30 | | | 12:00 15:30 | | 17:30 18:00 19:00 | | | 21:00 21:30 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2月5日 | | 受付 | ＜久しぶりの再会に！＞<br>＜淡路島の「豊かな自然」を感じよう！＞<br>諭鶴羽神社の宮司奥本氏とともに諭鶴羽山を登山、諭鶴羽神社を訪問 | 昼食・下山 | ＜未来図AWAＪＩを描こう！②＞<br>自分の考えや思いをまとめ、班で１つのメッセージ動画を制作 | 夕食 | 入浴 | ＜未来図AWAＪＩを発信しよう！①＞<br>動画制作の続き | 就寝準備 | 就寝 |

| | 6:30 7:00 7:30 9:00 | | | | 12：00 13：30 | | 15:30 16:00 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2月6日（日） | | 起床 | 朝食 | 掃除・移動 | ＜未来図AWAＪＩを発信しよう②＞<br>市長、猟友会、阿万吹上地区自治会、関わっていただいた講師、保護者に向けて、制作した動画を放映 | 昼食 | ＜まとめ＞<br>講師内藤氏とともに再度環境保全について考え、自分のチャレンジ宣言を発表 | 閉会 | 解散 |

## ７　プログラムの詳細

第一回―１日目―

### 【開会・一緒に過ごす仲間を知ろう！】（交流の家）

・まず最初に各班で自己紹介を行った。自己紹介の中には、「家の近くにいるであろう野生生物」をそれぞれ共有した。その後、事業概略および探検隊の以下の３つのミッション

１．野生生物と共に暮らすことはできるのか！？
２．野生生物との共存と里山里海（自然）の保全はどんな関係があるのか！？
３．淡路島の未来のために何ができるのか！？

を説明し、各班で出た家の近くにいるであろう野生生物を全体で共有した。
全体で共有する中で、「それは野生生物？」や「この動物は見たことある」等、今持っている野生生物の認識度合いを確認することができた。

・探検隊のミッション「３.」は「地域への発信」として掲げ、動画を制作するための素材（写真や動画等）を収集するためには、各班で iPad やボイスレコーダーを使うことや、たくさんのインタビューをすることを説明した。

### 【活動①～淡路島の魅力「豊かな自然」を学ぼう～】（交流の家）

・講師の内藤氏に「今地球規模で起こっている環境問題やその原因」についてお話しいただいた。石油産業の発展により様々な環境破壊が起こっていることや生態系ピラミッドではどの階層にも人間が関与していること等をお聞きし、参加者は技術の革新とともに、人間が地球や他の生物に多大なダメージを与えてしまっていたことを痛感した。

### 【活動②～野生生物を知ろう～】（阿万吹上地区）

・獣害対策特別地域となっている阿万吹上地区を訪ね、自治会の阿部錦也氏と阿部章氏から獣害の被害状況や獣害対策についてお話を聞きながら、実際のフィールドを見学した。
・畑や田んぼにはたくさんの鹿の足跡が残っており、山際には猪の獣道が見られ、参加者はまさに野生生物の息遣いを感じることができた。
・動画制作のために鹿の足跡や柵、檻などを静止画や動画で撮影する他、講師に「大変なことはなんですか」「費用はどのくらいかかるのですか」等たくさんインタビューを行ったことで、普段知ることができない多くの情報を収集することができた。

## 【活動③～班で情報をまとめよう～】（交流の家）

・獣害対策地域を見学し、インタビューをした情報を各班で共有し、人間に対するメリット、デメリットと野生生物に対するメリット、デメリットをそれぞれ出し合い、情報をまとめた。

## 【活動④～環境への知識を深めよう～】（交流の家）

・最初は何も言わず、各班でジェンガをしてバランスゲームを楽しんでいたが、振り返る前から参加者から「これは生態系と同じだ」というつぶやきが聞こえてきた。ゲームの後、参加者からは「一つを抜くと全体のバランスが崩れるのは生態系バランスと同じことだ」といった意見が出され、「一つピースが欠けると生態系にどんな影響が及ぶのかわからない、それは絶滅に起因することもある」ということを学んだ。
・環境教育プログラムであるプロジェクトワイルドの「オーディア！」を通して、野生生物は食べ物、水、安心安全な住処が無ければ生きていけないことや、野生生物の個体数はその生息状況により増えたり、減ったりすることを学んだ。参加者は、そのアンバランスな生態系の中で、人間の手が入ることでどれほど大きな影響があるかを感じた。

**第一回―２日目―**

## 【活動⑤～ジビエ肉を五感を使って感じよう、ジビエ料理をしよう～】（交流の家）

・吉備国際大学狩猟部の学生から野生生物を捕獲する方法や捕獲した野生生物のほとんどは焼却されていること、猟師の高齢化、命を無駄にしないために様々なジビエ料理があることを学んだ。
・その後は、学生が子イノシシを解体するところを見学した。解体は３段階で行い、最初の段階は血抜き、皮剥処理等がされた状態から各部位毎に骨がついた状態で解体をする。次の段階は、骨がついた状態から市販で売られているようなブロック肉の状態まで解体する。中学生以上の参加者は見学する段階を自己判断で選択し、小学生は最後の状態（ブロック肉となった状態）から見学を行った。解体では、各部位の特徴や解体の難易度等を聞きながら観察した。

・ジビエ肉の解体後、ブロック肉となった各部位について再度レクチャーを受け、参加者は触ったり、匂いを嗅いだり五感を使い、普段見ている牛肉や豚肉等との違いを確かめた。ジビエ肉を触り、「温かい」や「やわらかい」、「触り心地がよい」等の感想が多くみられたが、そもそも普段から動物の生肉を触る経験はしていないようだった。

・ジビエ料理のメニューは、ハンバーガー、ソーセージ、シチューで、全員がそれぞれのメニューの調理を体験した。ブロック肉をミンチにする光景を珍しそうに見る姿や、ミンチ肉を羊腸に詰めるソーセージ器に苦戦する姿、手慣れたようにハンバーグをこねる姿が見られた。

## 【活動⑥～２日間をふりかえろう！～】（交流の家）

・２日間の振り返りは、京都大学の柴田氏を講師に招き、どんな体験をしたのか、どんな思いを抱いたのかを一緒に振り返った。野生生物が田畑を荒らすようになったのは、人が山や森に入らなくなったことが要因の一つであり、野生生物が勝手に里に下りてきているわけではないことを学んだ。牛肉や豚肉の代わりにジビエ肉を普段食べることができるか、という講師の問いに、参加者はそれほど難しい話ではないといった様子だった。ジビエ肉を普段から食べることも環境保全の一つであることを学んだ。一方で、猟師の高齢化が進んでいることや、罠や柵のメンテナンスの大変さ、ジビエ肉に加工する施設の少なさ等、多くの課題が山積みであることも振り返り、自分たちに何ができるのかを考えた。

第二回―１日目―

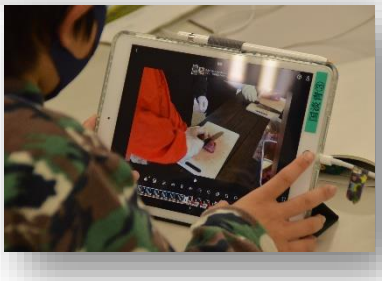
## 【再開の会・第一回の振り返り】（交流の家）

## 【活動①～淡路島の「豊かな自然」を感じよう！～】（諭鶴羽山、諭鶴羽神社）

- この活動の講師である諭鶴羽神社の宮司奥本氏から理科の実験で使うような「浄水」と諭鶴羽山から流れる「神水」にはどんな違いがあるのか、これを探しに登山をしようと導入の説明があった。
- 海抜０ｍが登山口の表参道を登り始め、少し登ったところに鹿柵の入り口があった。この入口からは野生生物の生活域となること、そして神様の領域でもあることを聞いて参加者は「いよいよ入るぞ」という表情をしていた。登山道の途中には、田畑の跡や炭焼き跡等も見られ、野生生物が棲む山にも人間の暮らしを垣間見ることができた。また、カシナガ（害虫）によって枯れた木々を観察し、奥本氏より「高齢な木々が増えるとカシナガが広範囲に生息していくことができるため、山を整備する必要がある」と説明を受け、野生生物が棲みやすい森とは何か、人が森に入るメリット・デメリットを考えた。
- 諭鶴羽神社では、祀られている４つの神様について説明を受けた。諭鶴羽神社には「水」、「母」、「海」、「山」の神が祀られており、昔の人たちは農家も漁師も、すべての生命に対して尊厳の思いを持ち、暮らしを支える自然の恵みをいただくため、この山を守り、ここから流れる「神水」を守ってきたという。
- 山頂では、諭鶴羽山から流れる（神）水が川として私たちが暮らす里を流れ、豊富な栄養が最終的に海に流れる一連の自然循環を一望することができた。
- 下山途中では、多種多様な樹木が茂る中、杉林地帯が現れた。そこでは自然林と人工林のお話を聞き、二千年守ってきた森もあれば、人が生活するために開拓した地もあることを学んだ。

## 【活動②～未来図 AWAJI を描こう！～】（交流の家）

## 【活動③～未来図 AWAJI を発信しよう！～】（交流の家）



- これまでの体験を通して、野生生物との共存について自分はどう思うのか、環境を保全していくためにどのようなことをしていかなければならないと考えるのかを各自でまとめた。
- 動画の制作において、伝える対象は「保護者世代」とし、１分間を目安とした動画を制作することとした。制作には、株式会社フィールドコムから温泉氏、今西氏、伊名岡氏の３名の講師に各班の指導・サポートを行っていただいた。
- 動画の制作に向けて、各班で一つだけメインとなるテーマを決めた。１班は「野生生物と共存するためには」、２班は「野生生物と共存できるのか」、３班は「ジビエ料理を広めること」だった。野生生物との共存に対する思いがそれぞれの班の中で違い、テーマを一つに絞ることにとても苦労していた。中でも２班は、共存できると思う人とできないと思う人が分かれ、討論となっていた。
- メインとなるテーマを決め、そのテーマにつながるメッセージやキーワードを考え、１０コマを目安とした台本に落とし込んだ。台本から素材（写真や動画）を撮影していくのではなく、素材の撮影はこれまでの体験の中で撮ってきているため、そのメッセージやキーワードに合う素材（写真や動画）を選ぶことも大変な作業だった。

・動画の制作には各班 iPad２台を使用し、そのうちの１台をモニターに投影しながら、班員全員が「そこは何色が良い」や「背景をしっかり見えるようにしたい」等意見を出し合い、どのように発信することが良いのか考えながら制作をしていた。また、自分たちの声を録音し、動画に載せる班やシーンに合わせて音楽を変える班もあり、「伝える」ための様々な工夫がみられた。

第二回―２日目―

## 【活動④～発表の準備をしよう～】（交流の家）

・前夜に完成しなかった動画を時間ギリギリまで編集したり、音声を入れる班や、何度も最終確認を行う班が見られ、最後まで完成度を上げようと奮闘していた。上映会前には、鑑賞に訪れた参加者の保護者や来席者が続々と集まり、緊張した面持ちで発表準備をする様子が見られた。
・新型コロナウイルス感染症対策として、入口には検温機とアルコール消毒を設置し、来場者の席は２m間隔に設置し、会場内外の窓を開け常に換気を行うようにした。また、参加者と来場者の席を分けて設置することで、感染経路をなるべく遮断できるようにした。

## 【活動⑤～未来図 AWAJI を発信しよう！～】（交流の家）

・制作した動画の上映に際して、南あわじ市長をはじめ、南あわじ市役所鳥獣対策室の方、南あわじ市猟友会の方、阿万吹上地区の方、この事業に関わっていただいた講師の方、参加者の保護者の方、総勢４０名ほどが来場した。
・動画を放映する前に、担当の職員から参加者が体験したこれまでの活動を紹介した。
・各班動画を放映し、班の代表者がメッセージの説明、そして班員全員が「この事業で印象に残っていること」、「この事業で学んだこと」、「動画を制作して大変だったこと」のどれかを発表した。「意外とジビエ料理が美味しかったこと」や「野生生物と共存するために一人ではなかなか解決できないこと」、「意見がバラバラで一つの動画にまとめるのが大変だった」等の感想が発表された。

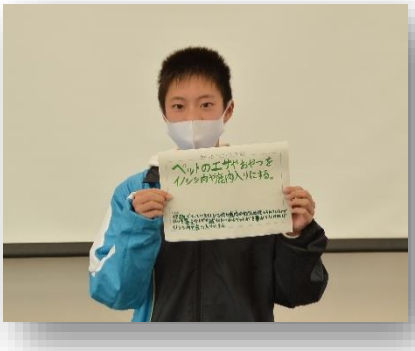
・参加者の発表の後には、南あわじ市長から「動画の完成度に驚いた。メッセージが伝わる動画だった。美味しいジビエ肉にするためには大変な過程を経ていることも覚えてほしい。また、野生生物だけでなく、自然の恵みである様々な命をいただいて生きていることを忘れないでほしい。」と講評をいただいた。その後には、講師の内藤氏から「この事業の中で、思っていた以上に子どもたちは理解し、環境について考えた。色々な要因が絡み合う問題でなかなか解決することは難しい。そのことを知ることが大切であった。子どもたちのメッセージが地域の方に伝わってほしい。」と講評をいただいた。
・来場した保護者の方からも「子どもがこの事業のことをすごく楽しそうに話していたので、どんな体験をしたのか気になっていた。」といった感想をいただいた。

## 【活動⑥～AWAJI 未来探検隊のふりかえり～】（交流の家）

・最後のふりかえりは、探検隊のミッションについて、再度考える機会を設けた。ミッション１の「野生生物と共に暮らすことはできるのか！？」について、「みんなで協力して野生生物にとって良い自然環境を作る必要がある」や「自分たち以外の一般の人でもできることはたくさんある」といった共存できると考える参加者もいれば、「壊してしまった自然はすぐには戻らないので、共存するには時間がかかる」や「人は生態系を壊してしまうかもしれない」、「野生生物からの被害を減らすことは難しい」といった考えを持つ参加者もいた。
・特に、「共存とは」ということを改めて疑問視する参加者もおり、講師の内藤氏から「共存と共生」について説明を受けた。「タイ（国）の牛は共存しているのか」という参加者からの意見もあった。奈良県の鹿やイノシシを祭る神社の話等野生生物との関わりの例を提示しながら、共存の仕方に正解はないことを伝え、より良い「共存」について再度考えた。

・講師の内藤氏より、原始時代からの歴史と自然との共生・共存との変遷を学んだ。牧畜や農耕が始まってから、生態系のバランスを変えてしまい、エネルギー革命により自然との共生が崩壊し、石油等の地下資源を使う現代を見比べ、どの時代に戻ることがバランスのとれた自然との関わりであるか改めて考えた。

・最後に、この事業が終了し日常の生活の中で、今回のテーマについて取り組んでいく目標「チャレンジ宣言」を行った。参加者は、「自分でも身近にできることがあるので行っていく」や「野生生物にとってより良い環境を作るため、山のゴミを減らす」、「山に人間の匂いを付けることで、農作物の被害を減らせるので１か月に１回以上山に行く」等、事業後も淡路島の未来を創る一員として責任感と希望を持って宣言を行っていた。

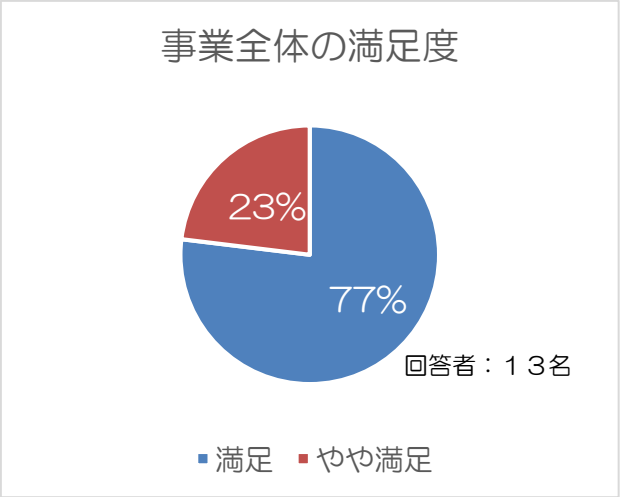


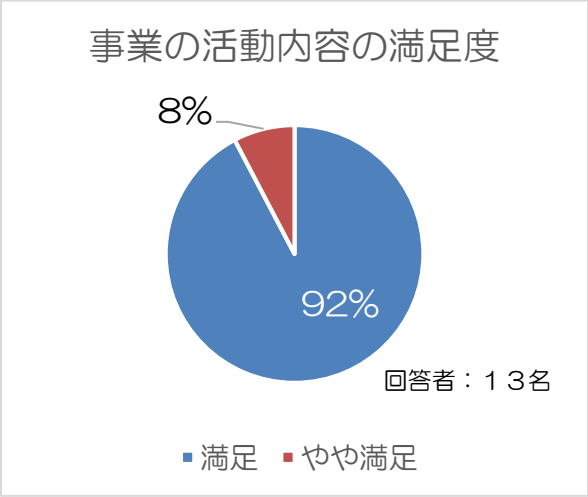

## ８　各班が制作したメッセージ動画

・各班が制作した動画は、南あわじ市のケーブルテレビでニュース番組として放映される他、年間を通して、CM として定期的に放映される予定である。その他、当施設の YouTube チャンネルにおいて、アップロードする予定である。

## ９　参加者アンケートより

| | |
|---|---|
| ・来年も来たい。<br>・野生生物との共生のため自分ができるようなことをしていきたい。<br>・自分が知らないことをたくさん知った。ジビエのことや諭鶴羽山のことをたくさん知れて楽しかった。<br>・だいたいは人間のせいでこんことになったのだと思った。 | ・これからも自分ができることをできるだけ進んでやっていき、周りの人たちに伝えて淡路島をより良くしていきたい。<br>・楽しいのでボランティアでもいいから高校生になっても参加したい。<br>・高校でもやりたいと思った。 |




## １０　担当者の所感

今回のテーマは非常に深いテーマとなり、大人でも考えこんでしまうような地域課題に対し、「良い」「悪い」ではなく、様々な立場の方を講師に招聘し、多角的に考えることを意図し企画しました。やはり参加者もプログラムを重ねるにつれ、答えのない問題に混沌とした様子が伺えました。動画のメッセージにもありますが、「これは私達（参加者）のミッションであり、皆さんのミッションでもあります」と訴えかけるこのメッセージが全てのように感じます。少しでも多くの方にこのメッセージが届くよう、当事業の認知度を広げ、続けていきたいと思います。

主　催　　国立淡路青少年交流の家
〒656-0543　兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39
TEL 0799-55-2696　FAX 0799-55-0463
https://awaji.niye.go.jp/